南アメリカ・オセアニア
州

名前

問1　南アメリカ大陸の大部分を占めるブラジルでは、1980年代の輸出統計においてコーヒー豆が圧倒的な割合を占めていました。このように特定の農産物や資源の輸出に依存する経済構造を「モノカルチャー」と呼びますが、近年のブラジルの産業の変化について述べた説明として、適切なものはどれですか。（2023年 富山県公立入試 類似）

1. 1980年代から現在に至るまで、一貫してコーヒー豆とバナナの輸出が国内総生産の半分以上を占めるモノカルチャー経済が維持されている。
2. 農業を縮小して原油の採掘と輸出に特化する政策をとったため、現在は世界最大の原油輸出拠点としての地位を確立している。
3. かつてはコーヒー豆への依存度が高かったが、現在は大豆やサトウキビなどの農産物に加え、鉄鉱石などの鉱産資源の輸出も拡大し、産業の多角化が進んでいる。
4. サトウキビの生産からコーヒー豆の生産へと栽培品目を集約したことで、特定の農産物に特化した経済構造がより強まっている。

問2　オーストラリアの歴史や文化に関する記述として、先住民族であるアボリジニーの背景をふまえて最も適切なものを選びなさい。（2018年 茨城県公立入試 類似）

1. かつて採用されていた白豪主義という政策によって、アジア系住民とともに優先的に保護され、国政の中心を担ってきた。
2. ニュージーランドを主な居住地としており、ラグビーの試合前に行う伝統の踊り「ハカ」を継承していることで知られている。
3. 狩猟を中心とした生活を送る北米の先住民であり、雪で作った家であるイグルーに住む文化を現在もすべての部族が維持している。
4. イギリス人の入植以降、土地を奪われるなどの迫害を受けた歴史があるが、現在は多文化主義のもとで権利の回復が進められている。

問3　18世紀後半から19世紀にかけて行われた、イギリスによるオーストラリアの開発初期の状況について述べた文として、最も適切なものを選びなさい。（2026年 愛媛県公立入試 類似）

1. 香辛料の栽培を主な目的として、東インド会社による大規模なプランテーションが作られた。
2. アメリカ独立によって流刑地を失ったイギリスが、犯罪者を送り込む先として開発を開始した。
3. 入植当初から先住民の文化を尊重し、伝統的な土地所有権を認めた上で平和的に開発が進んだ。
4. 金鉱の発見をきっかけに開発が始まったため、最初から自由移民のみによって社会が形成された。

問4　ブラジルなどの農業地域では、サトウキビが砂糖の原料としてだけでなく、環境に配慮したエネルギー源としても活用されています。このようにサトウキビを燃料として利用することが、地球温暖化対策に繋がると考えられている理由として最も適切な説明はどれですか。（2019年 群馬県公立入試 類似）

1. 原料となる植物が成長する過程で二酸化炭素を吸収するため、燃焼しても大気中の二酸化炭素を実質的に増やさないとされるから。
2. サトウキビから燃料を抽出する際に、温室効果ガスを吸収する特殊な副産物が生成される仕組みがあるから。
3. 石油や天然ガスなどの化石燃料と比較して、燃焼時に二酸化炭素を一切排出しないという性質を持っているから。
4. 地下資源を掘り起こす必要がないため、採掘の際に行われる森林破壊や地盤沈下を防ぐことができるから。

問5　バナナの国際的な流通において、エクアドルが果たしている役割やその特徴を説明したものとして、背景や統計的背景を踏まえて最も適切なものはどれですか。（2022年 京都府公立入試 類似）

1. 中継貿易の拠点として、近隣諸国で生産されたバナナを加工して再輸出することで、高い輸出額を維持している。
2. 生産量は世界第1位であるが、人口急増に伴う国内需要の高まりにより、輸出量は年々減少傾向にある。
3. 自国の広大な土地を利用して輸出用バナナのプランテーション農業を発展させ、世界市場の4分の1を超える輸出シェアを誇っている。
4. アジア諸国への輸出に特化しており、フィリピンの生産量を上回るために国家主導で増産を行っている。

問6　農業統計において、農林水産業に従事する人の割合が約1.5%と非常に低いのに対し、従事者1人あたりの農地面積が160ヘクタールを超えて突出して広い数値を示す国があります。このような、広大な国土を背景に少ない労働力で大規模な生産を行う農業のあり方を何と呼びますか。（2017年 徳島県公立入試 類似）

1. 集約的農業
2. 粗放的農業
3. 施設園芸農業
4. 自給的農業

問7　中国、アメリカ、ブラジル、日本、オーストラリアの5か国の統計において、自動車の総生産台数は他の4か国に比べて少ないものの、人口100人あたりの自動車保有台数が非常に多く、結果として二酸化炭素排出量も多くなっている国はどこか、名称を答えなさい。（2017年 静岡県公立入試 類似）

1. オーストラリア
2. ブラジル
3. 日本
4. 中国

問8　南アメリカ大陸で最大の面積を持ち、世界全体の約6.3%にあたる約852万km2の国土を有する国について、その資源や産業の特徴を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2019年 長野県公立入試 類似）

1. 広大な乾燥帯の土地を活用した羊毛の生産が盛んであり、鉄鉱石や石炭の産出量は多いがオセアニアに位置する。
2. 広大な国土面積を持ちながら、鉄鉱石の産出とともに近年はIT産業の発展が著しい南アジアの国である。
3. 鉄鉱石の生産量が世界全体の約3分の1を占めるなど、豊富な地下資源を背景に輸出を伸ばしている。
4. 世界最大の国土面積を持ち、原油や天然ガスなどのエネルギー資源の輸出が経済の大きな柱となっている。

問9　オーストラリアの貿易統計において、輸出額の第1位と第2位を占めている主要な品目の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2020年 千葉県公立入試 類似）

1. 鉄鉱石と石炭
2. 小麦と羊毛
3. 機械類と自動車
4. 原油と天然ガス

問10　南アメリカ大陸に位置し、2016年に夏季オリンピックを開催したブラジルでは、サトウキビなどを原料とした燃料の生産が盛んです。この燃料が、地球温暖化対策として二酸化炭素の排出を抑える手段になると考えられている理由として、最も適切なものはどれですか。（2023年 長崎県公立入試 類似）

1. 原料となる植物が成長過程で二酸化炭素を吸収するため、燃焼しても大気中の二酸化炭素を実質的に増やさないから。
2. 燃焼しても二酸化炭素を全く排出せず、排気ガスからは水蒸気のみが排出されるという性質を持っているから。
3. 石油や天然ガスなどの化石燃料に比べて、燃焼時に発生する熱量が非常に低いため、二酸化炭素の排出もわずかで済むから。
4. 農作物を燃料に加工する工程において、周囲の大気中に含まれる二酸化炭素を吸収して酸素に分解する働きがあるから。

問11　オーストラリアの輸出統計において、1960年時点では輸出額の第1位を占めていたものの、2010年代後半には鉄鉱石や石炭といった鉱産資源にその座を譲った、かつての主要な農産物は何ですか。（2025年 岐阜県公立入試 類似）

1. 石油
2. 綿花
3. 天然ゴム
4. 羊毛

答え合わせ・解説

問1	答え 3 かつてはコーヒー豆への依存度が高かったが、現在は大豆やサトウキビなどの農産物に加え、鉄鉱石などの鉱産資源の輸出も拡大し、産業の多角化が進んでいる。	ブラジルはかつて特定の農産物に依存するモノカルチャー経済の傾向が強く、国際価格の変動が国内経済に大きな影響を与えていました。しかし、近年ではセラードと呼ばれる地域の大規模開発により大豆の生産が急増したほか、バイオ燃料の原料となるサトウキビ、さらには世界有数の産出量を誇る鉄鉱石、航空機などの工業製品といった輸出の多様化が進み、経済の安定化が図られています。
問2	答え 4 イギリス人の入植以降、土地を奪われるなどの迫害を受けた歴史があるが、現在は多文化主義のもとで権利の回復が進められている。	オーストラリアはイギリスの植民地となった後、白人以外の移民を制限する「白豪主義」を長らくとっており、先住民のアボリジニーも厳しい差別の対象となっていました。しかし、1970年代以降は多様な民族の文化を尊重する「多文化主義」へと政策を転換し、アボリジニーの聖地であるウルル（エアーズロック）の返還や、過去の政策に対する政府の謝罪など、権利回復と共生への取り組みが行われています。
問3	答え 2 アメリカ独立によって流刑地を失ったイギリスが、犯罪者を送り込む先として開発を開始した。	イギリスはアメリカ独立戦争に敗れて北米の植民地を失ったため、新たな流刑地としてオーストラリアを利用し始めました。19世紀半ばに金鉱が発見されて自由移民が急増するまでは、流刑者とその監視役が開発の中心を担っていました。
問4	答え 1 原料となる植物が成長する過程で二酸化炭素を吸収するため、燃焼しても大気中の二酸化炭素を実質的に増やさないとされるから。	バイオエタノールなどのバイオ燃料は、燃焼時に二酸化炭素を排出しますが、その二酸化炭素は原料となる植物が成長過程で光合成によって吸収したものです。このため、大気中の二酸化炭素の総量に影響を与えないという「カーボンニュートラル」の考え方に基づき、地球温暖化の抑制に寄与するエネルギーとして注目されています。化石燃料は地中に固定されていた炭素を排出するため、この点が大きな違いとなります。
問5	答え 3 自国の広大な土地を利用して輸出用バナナのプランテーション農業を発展させ、世界市場の4分の1を超える輸出シェアを誇っている。	エクアドルでは、低地の熱帯気候を活かした大規模なプランテーションで輸出用のバナナが栽培されています。2016年の統計では世界全体の輸出量2064万トンのうち約597万トンを1カ国で供給しており、国際市場において極めて高い支配力を持っています。生産量だけでなく、その多くが輸出に向けられている点がこの国の農業の大きな特徴です。
問6	答え 2 粗放的農業	オーストラリアでは、広大な土地に対して労働力が不足しているため、機械や航空機などを活用して大規模な経営が行われています。単位面積あたりの手間や肥料の投入を抑えつつ、広い面積で効率よく生産するスタイルは「粗放的」と呼ばれ、日本のような限られた土地に多くの資本や手間をかける「集約的」な農業とは対照的な特徴を持っています。
問7	答え 1 オーストラリア	自動車の総生産台数が他国より少ないのは、人口規模が約2500万人と比較的小さいため、国内の市場規模や労働力が限定的だからです。一方で、広大な国土に都市が分散しているという地理的な要因から、市民の生活において自動車への依存度が高くなっており、人口100人あたりの自動車保有台数は世界でもトップクラスの数値を示します。また、移動距離の長さや自動車への依存が、一人あたりの二酸化炭素排出量を押し上げる一因となっています。
問8	答え 3 鉄鉱石の生産量が世界全体の約3分の1を占めるなど、豊富な地下資源を背景に輸出を伸ばしている。	ブラジルは南アメリカ大陸で最大の面積を誇る国であり、その広大な国土には豊富な鉱物資源が眠っています。特に鉄鉱石の産出量は世界シェアの34.7%に達するなど、世界有数の供給源となっています。他の選択肢にあるロシア（世界最大の面積）、インド（南アジア）、オーストラリア（オセアニア）も広大な国土や資源を持ちますが、南アメリカ大陸という位置条件と鉄鉱石の圧倒的なシェアから、ブラジルの特徴と判断できます。
問9	答え 1 鉄鉱石と石炭	オーストラリアは広大な土地に豊富な地下資源を持つ資源大国です。統計上、輸出のトップ2は鉄鉱石と石炭であり、これらは主に中国や日本などの工業国へ送られています。かつては羊毛の輸出が中心でしたが、現在は鉱産資源が経済の柱となっています。
問10	答え 1 原料となる植物が成長過程で二酸化炭素を吸収するため、燃焼しても大気中の二酸化炭素を実質的に増やさないから。	ブラジルで広く普及しているバイオ燃料は、サトウキビなどの植物を原料としています。植物は成長する際に光合成によって大気中の二酸化炭素を吸収するため、燃料として燃やした際に二酸化炭素を排出しても、それは元々大気にあったものが戻っただけであるとみなされます。この「排出と吸収が差し引きゼロになる」という考え方をカーボンニュートラルと呼び、バイオ燃料は再生可能エネルギーの一つとして、石油などの化石燃料に代わる役割が期待されています。
問11	答え 4 羊毛	かつてのオーストラリアは、イギリスなどヨーロッパ向けの羊毛輸出を中心とする農牧業が産業の柱でした。しかし、戦後は日本や中国といったアジア諸国での工業化が進んだことにより、工業原料となる鉄鉱石や石炭などの需要が高まり、輸出の中心が農産物から鉱産資源へと大きく変化しました。